

城県石巻市、女川町)の敷地内に新設する方針を表明しました。9月ごろに予定する2号機の再稼働により、原子炉建屋内の使用済み燃料プールが、4年程度で貯蔵上限に達するためとしています。

同日、県や立地自治体に事前協議を申し入れ。青木宏昭原子力部長は県への申し入れ後、「(貯蔵)期間は燃料を搬出するまでとしか言えないが、一時的な貯蔵には問題ない」と強調しました。

東北電力によると、施設の設置には国の認可や自治体の同意が必要。余2棟で10年分以上の使用済み燃料を貯蔵でき、建設費は計約144億円。2028年3月の運用開始を目指しています。

乾式貯蔵は、燃料プールで十分に冷却した

使用済み燃料を頑丈な金属製の容器に入れ、空気の自然対流で冷やしながら保管する方法。東京電力福島第1原発などで設置され、関西電や九州電などの原発でも導入への動きがありますが、東北電の設置表明は初めて。

女川原発内に 乾式貯蔵施設

東北電力は27日、原発から出る使用済み核燃料を保管する乾式貯蔵施設を、女川原発(宮